

筑北村 議会だより

第121号

令和8年1月15日発行

編集 筑北村議会だより編集委員
〒399-7501
長野県東筑摩郡筑北村西条4195番地
電話 0263-66-2111
FAX 0263-66-3370

- 今回の内容
- 議長就任及び年頭挨拶
 - 各議員選任の挨拶
 - 第3回臨時議会の結果

年頭並びに議長就任のご挨拶

筑北村議会議長 窪寺 務



新年あけましておめでとございます。令和8年の年頭にあたり、議会を代表して新年のご挨拶を申し上げます。

新春を迎え、村民の皆様のご多幸とご健勝をお祈り申し上げますと共に、日頃より議会に對しまして、多くのご支援、ご協力をいただいておりますことに、心より感謝とお礼を申し上げます。

昨年10月には、筑北村長選挙・

村議会議員一般選挙が行われ、議会も新体制となり、11月には臨時議会が開かれ、正副議長・各常任委員会などの構成が決められました。

私は、議長に指名推薦され、その重責を担わせていただくことになりました。議会運営と共に議会改革にも議論を重ね、しっかり取り組んでいきます。

さて、昨年合併20周年の節目を迎えましたが、合併当初6000人余りの人口が、少子高齢化の影響から、人口減少に拍車がかかり、現在では、3900人を割り込み、高齢化率も50パーセントに迫っております。昨年の国勢調査でも人口

は減少しています。これにともない、普通交付税の減や、労働人口の減少に伴う住民税等の自主財源の減があり、對して物価高の影響による公共施設の維持管理経費の増や、最低賃金の上昇等人件費の増による経常経費の増加は、健全財政維持に向けて大きな課題となり、早期の対応が必要となっております。

公共施設の統廃合や、更なる経常経費削減に向け、村との情報共有、意思の疎通に努め、議会として課題解決に向け、協力してまいります。

一方では、村民の皆様の生活に必要な地域公共交通の利便性の向上や、獣害対策等農業施策の充実、社会基盤の整備、産業振興、教育振興等の課題に對し、村民の皆様の声を村に反映させてまいります。

議会としても、自主財源の確保に向け、議会改選前に解決できなかった、議会改革に向け取り組んでまいります。

結びに、今年一年が皆様にとって、良い年となることをお祈りし、新年のあいさつといたします。

11月18日第3回臨時議会

第3回臨時議会が開催され次の事項が決められました。

職名	氏名	所属委員会
議長	窪寺 務	社会文教
副議長	藤原 孝一	社会文教
議員	吉池 昌昭	建設産業
議員	藤澤 光雄	建設産業
議員	若林 敬子	総務
議員	勝田 昇	○総務

職名	氏名	所属委員会
議長	一之瀬茂幸	◎社会文教
議員	玉井 玲子	◎建設産業
議員	横山 敬	総務
議員	千葉 和久	○建設産業
議員	庄司 真実	○社会文教
議員	山田 直幸	◎総務

◎…委員長 ○…副委員長

議会選出の監査委員 吉池 昌昭

新体制議会 私達の抱負

将来を見据えて！

議長 窪寺 務



私たちが、満足のいく行政サービスを受け、安心して筑北村に暮らしていくためには、収入財源の確保が必要となります。収入の半分を占める地方交付税は、今後減少傾向で推移していきます。

限られた財源を、必要な行政サービスに繋げるよう、経常経費削減も必須となります。

今後の課題となる、公共施設の統廃合・公共交通利便性の向上等に対し、住民目線を大切に、将来を見据え、議員として方向付けに関わっていきます。

笑顔が輝く

村をめざして

副議長 藤原孝一



村議会臨時会において、副議長に選任いただきました。改めてその責務の重さを痛感しております。今後は副議長としての職務を全うし、議長の補佐役として村政の推進、公正で円滑な議会運営、そして議員定数を含む議会改革にしっかりと取り組んでまいります。また、少子高齢化・人口減少・防災対策・産業振興・子育て支援・福祉の充実など、村が抱える多くの課題に対し村民の皆様の声を丁寧に向い、政策に反映できるように、執行機関とも真摯に議論を重ね皆様の信頼に応えることができよう全力で取り組んでいく所存です。

持続可能な村を

目指して

吉池昌昭



皆様のご支援をいただき議員に当選することができました。大変ありがとうございます。世界情勢を見ると、高市首相の発言で中国との関係の悪化、アメリカの関税による日本経済打撃、終わりが見えないウクライナ戦争、地球温暖化による気候変動、コーヒーなど食料品の値上がり、魚の不漁、大雨による災害、火災など多岐にわたっています。村は合併20年を迎え、人口減少、少子高齢化が進み、農業の担い手不足など課題が多くありますが、持続可能な村づくり、村の現風景を未来に向かつて、進めていきたいと考えています。

穏やかな毎日を

藤澤光雄



水道の蛇口をひねれば水が出る、通勤通学でいつもの橋・同じ道を通る。

この平和な毎日が送れるのは、社会基盤(インフラ)が、ちゃんと機能しているからです。

自分は半世紀近く土木関係の仕事をしてきたので、筑北村の上下水道や橋、道路などのインフラに注目しています。しかし、そればかりでなく村が抱える様々な課題も真摯に向き合っていきたいと思っています。

先ずは現状の把握から仕事をしていきます。議会では批判だけでなく、有意義な提案をしていける様に心がけます。そして微力ながら筑北村の未来に貢献できる様に働きます。

思いを聴く
思いを伝える

若林敬子



少子化や人口減少により、希望を見つげにくい時代です。諦めそうになってしまいう時こそ、挑戦していきます。

- ① 女性・高齢者・障がい者にやさしい地域づくり
 - ② 希望が持てる子育て
 - ③ 村の財源の模索
 - ④ 災害に強い地域づくり
- 以上4つの課題解決に、取り組みます。

村民皆様の声をお聴きし、思いを村政に伝えて行けるように頑張ります。

『安全・安心・豊かな
筑北村』を目指して

勝田 昇



初当選以来、公共交通問題に取り組んでまいりました。今年新村長の誕生により、フルデマンド交通（戸口〜戸口）運行の村長公約を頂き、三期目の議員として、今後も安全・安心な豊かな生活の出来る村を目指し、議会議員として「福祉・教育・防災」に対し、行政に提言・対案に努力してまいります。

村民の皆様のご協力の程、よろしくお願い申し上げます。令和八年度、末広「午年」皆様のご健康、ご健勝を心よりご祈念申し上げます。また今後ともご意見いただけることをお願い申し上げます。

希望があふれ、安心して暮らせる筑北村を

一之瀬茂幸



筑北村の最大の課題は「人口減少対策」「高齢化対策」です。現役世代の移住の促進とともに誰でも安心して暮らせる環境づくりを目指していくため次の取り組みを推進してまいります。

- I 活性化に向け、移住につながる交流人口増に向けた取り組み、中小企業支援の後押し
- II 現役世代の移住促進対策推進
- III 災害に強い筑北を目指す取り組み
- IV 住み慣れた地域で安心して暮らせる介護福祉体制

V 高齢者が安心して利用できる公共交通の構築

村内の方一人ひとりの声をしっかりと聞きし、村政につなげてまいります。

女性の声を村政に！

玉井玲子



● 充実した教育・子育て環境
教育と子育ては筑北村が一番を目指した地域作り

● 自然を守り豊かな生活
暮らしやすさを実感できる筑北村の実現に全力を尽くします

● 次の世代につながる村に
子ども達が大人になってここで子育てしたいと想える村にしていきたい
この3つの実現を目指してみなさんの声を聴き村政に繋げてまいります。

また、課題であった議会議員の定数削減や、村民の方々との対話を増やして開かれた議会にしていきたいと思っています。

集落に子どもの声が聞える
聞える村を目指して

横山 敬



集落に、子どもの声が聞える村を目指して、若者移住、子育て世帯が安心して暮らせるよう必要な支援の充実を目指します。

筑北村をもっと外へ
もっと多くの人へ

千葉和久



筑北村は外向けの情報発信が弱く、まずは村の名前と場所を多くの方に知っていただくことが最重要です。認知が広がり関係を持つていただくことで、観光・移住・農業・産業などあらゆる分野に好循環が生まれ、財政の底上げにもつながります。人口減少と少子高齢化が進む中、全国の自治体は外へ向けた発信を強化しています。本村も基礎となる情報発信の体制を固め、取り残されないことが必要です。その上で、筑北村ならではの魅力あるコンテンツを継続的につくり、未来への道を開いていきます。

外からの視点と若い力で村をもっと楽しく！

庄司真実



外からの視点、そして若い世代ならではの感覚を活かし、村を盛り上げていきます。

★観光

村の魅力をPRし、情報を発信することで、村外から多くの人を呼び込みます。

★防災・減災

生きていなければ何も始まらない。自分の命、家族の命を守るスキルの向上に取り組めます。

目標は老若男女問わず、誰もが「住んでいて楽しい！この村に住んでよかった！」と思える村です。

経験は浅いですが、挑戦心と元気を武器に頑張ります。

未来へつなぐ、筑北の力 何を残し、何を創るか考える

山田直幸



【子育て】未来をつなぐ、筑北の力で子育て支援を強化し、安心と希望をもって子育てできる環境を整えます。

【暮らし・産業】筑北SICを起点に暮らし産業を活性化し、地域に適した産業を誘致することで活力ある村をつくります。

【行財政】議会議員定数を含めた議会構成の見直しを行い、住民に理解される議会への改革を進めます。

【交通】公共交通の充実で、誰もが安心して暮らせる村をつくります。

高齢者も安心して利用できるデマンドバスの更なる利便性向上を提案していきます。

